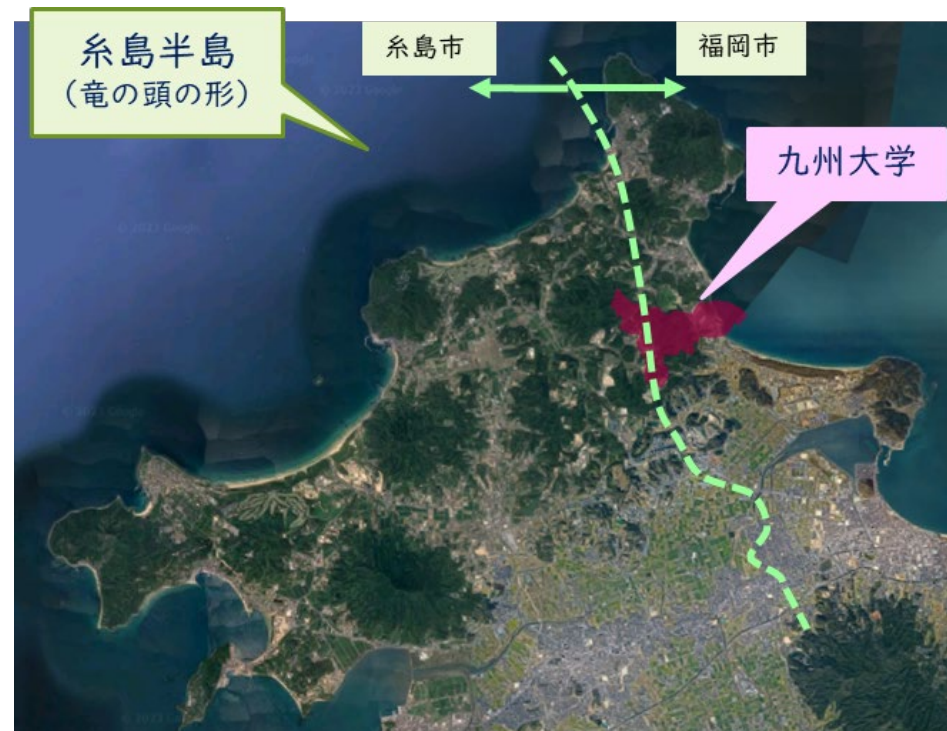
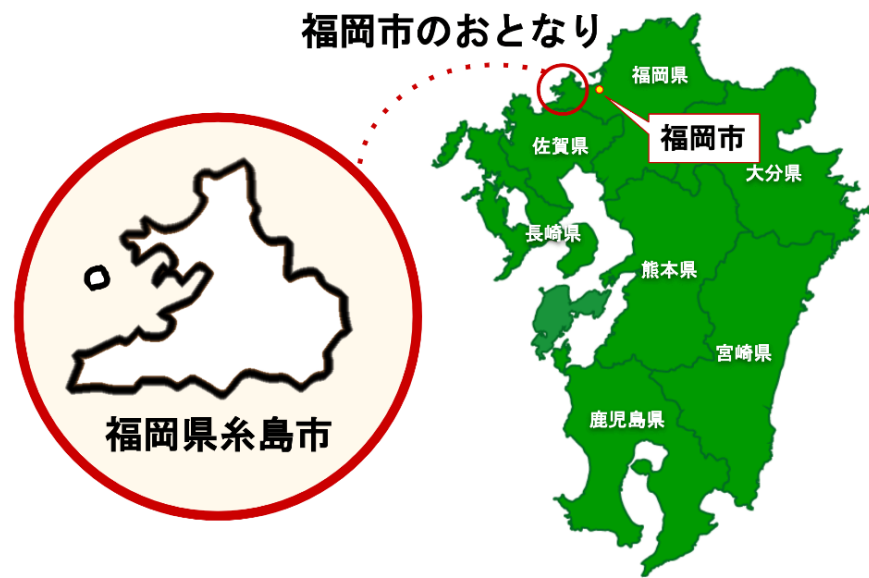


糸島市の紹介

- 2010年1月1日「糸島市」誕生(1市2町合併)
※2024年1月1日で市政施行14周年
- 福岡県の西端、人口約10万4,000人のまち
- 東:福岡市西区、西:佐賀県唐津市、南:佐賀市に隣接



政令都市である福岡市の西に隣接

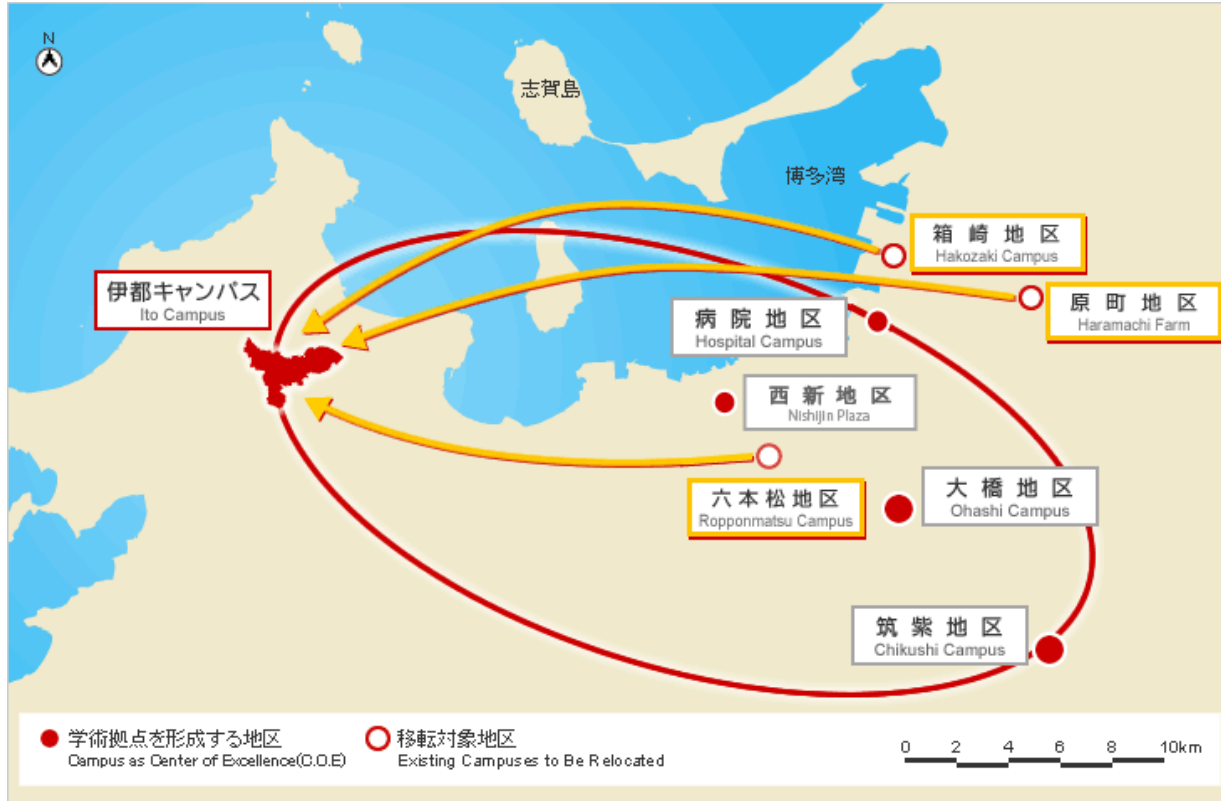
→福岡空港にダイレクトアクセス

※アジアに近い。(ソウル1h, 上海1.5h, 台北2.5h, 香港3.75h)

→JR筑肥線と福岡市営地下鉄が相互乗入運行。筑前前原駅から、すべて乗り換えなしで、福岡空港まで48分、JR博多駅まで42分、九州一の繁華街天神まで36分

日本一の面積を誇る「九州大学伊都キャンパス」

2005年秋から徐々に移転開始。2018年秋に移転完了



272ha

(みずほPayPayドーム約40個分)

※単一キャンパスでは日本一

約17,900人の学生・教職員が

伊都キャンパスで活動

◎伊都キャンパス所属の

- 学部・大学院生数:約14,000人
- 教職員数:約3,600人

◎このうち、**糸島市在住者**

- 学部・大学院生数:約1,500人
- 教職員数:約600人

伊都キャンパスにある学部

- 工学部
- 教育学部
- 理学部
- 経済学部
- 農学部
- 文学部
- 法学部
- 共創学部



【外国人留学生】

→九大には、世界109か国・地域から、2,526人の外国人留学生が学ぶ。

うち、伊都キャンパスは約2,000人が在籍。

→**糸島市在住の外国人留学生**は、約300人。

(2024年6月1日現在)

2010年5月九州大学と連携協力協定を締結



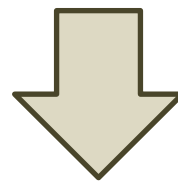
九州大学 有川節夫総長(左)
糸島市 松本嶺男市長(右) (※肩書は当時)

【連携協力事項】

- 1 九州大学と糸島市が有する資源の相互活用
- 2 九州大学と糸島市民との交流の促進
- 3 伊都キャンパス周辺地域の環境整備とまちづくり
- 4 その他、九州大学と糸島市が必要と認める事項

【円滑な協力の推進のための組織】

「九州大学と糸島市との連携協力推進協議会」を設置



九州大学と糸島市との
連携・交流事業は、民間
も含めて、毎年100件を
超える。

糸島市 学研都市づくり課

九州大学との連携・交流の窓口となる部署(ワンストップ対応)

九州大学が糸島にやって来たことで

- 1 中心部から九州大学への道路、バス路線ができた
- 2 市に九州大学担当部署ができた
- 3 市内に九大生、留学生、教職員が増えてきた
- 4 市まちづくりについて、九州大学に相談するようになった
- 5 九州大学に相談したいという市内事業者等が出てきた
- 6 九州大学に行きたいという子どもが増えた

しかし・・・

- 1 九大生と教職員の定住をもっと増やしたい
- 2 九州大学関連の企業・研究所の誘致が進んでいない
- 3 暮らしの中で、九大生や留学生との交流をもっと増やしたい
- 4 市内事業所と九州大学との連携がまだまだ進んでいない
- 5 九州大学が関わる新産業はつくりていない
- 6 地域のみなさんにとって、九州大学はまだ敷居が高い

まちと九大をつなぐ “空間” が必要

大学周辺の動向

糸島サイエンス・ヴィレッジ構想

2017～2018年度に、糸島市と九州大学が組織対応型連携研究を実施し、構想を策定。

九州大学の知的資源を実用化・事業化に繋げるとともに、研究者や民間事業者、学生、地域住民などが交流する機能を持ち、周辺環境に配慮しつつ永続的に発展する学術研究都市を民間主導で構築する。

九州大学連携地域(色付け部分) ※薄白全域
都市計画マスタープランで以下位置づけ

地区計画制度などの活用を図り、企業・研究所の誘致、学生・教職員の住居やレクリエーション施設等の立地を進める。

志摩テクノパーク

馬場地区地区計画

- エリア総面積 16.2ha
- 自然環境と集落環境が調和しながら、九大連携地域として九大との交流を育む土地利用を促進。

特別支援学校の設置

(福岡県教育委員会) 約2ha
小・中学部および高等部を有する40学級程度。2024年4月開校。

九州大学

泊カツラギ
地区

九州大学国際村構想

(2017年度～)

- 九州大学国際寮「settle international」
全240室 2020年8月 入居開始
- 国際ホテル
「settle GLOCALHOTEL ITOSHIMA」
4階建 コンベンションルーム完備
客室全85室 2021年8月開業

泊大塚地区における土地区画整理事業

- 戸建住宅250戸、約800名が居住予定
- エリア総面積 10.9ha
- 糸島市泊土地区画整理組合設立準備会
- 生活利便施設立地予定
- 2025年度事業完了予定

糸島市九州大学国際村構想

いつ

2010年に九州大学と糸島市の連携協定を結び、連携・交流を進めたことで、信頼関係を築くことができ、それがきっかけで2017年度に策定した現在も進行中の構想。

誰が

2016年度に、九州大学から糸島市に対して、外国人留学生及び研究者の住居や中長期滞在施設が足りないのを、糸島市に設置できないかとの相談があった。市の事業で行うべきものではなく、民間の協力が必要と考え、2017年以降、（株）西日本ファイナンシャルホールディングス、（株）西日本シティ銀行、セトル（株）が関与

何の目的で

日本人学生向け住宅は大学周辺部及び福岡市西区の九大学研都市駅周辺エリアに充足しつつあったが、外国人留学生を受け入れる住宅は足りない状況であったため、受け皿となる住宅が必要となった。併せて、研究のために九州大学を訪れる研究者が中長期的に滞在するホテルが大学周辺に必要だった。

どこに

糸島市内の泊カツラギ地区及びその南側地区計画区域（九州大学敷地の南側隣接地）
※当該地区は、市街化調整区域だったところを、大学関連の施設等が建てられるよう2006年度に地区計画を策定した箇所だった。

何をしたか

糸島市がそれまで連携・交流実績のあった九州大学、セトル（株）、西日本シティ銀行（西日本FH）をつなぎ、産学官金による協定を締結することで、民間主導でのまちづくりにつながった。糸島市としても「九州大学国際村構想」を策定して、九州大学の外国人留学生及び研究者を地域にあたたかく迎え入れる姿勢を示した。

地域の国際化に関する協定と国際村構想策定

地域の国際化に関する協定

【連携協力項目】

- (1) 留学生等の住居整備に関すること
- (2) 留学生等の短期滞在施設整備に関すること
- (3) 留学生等の生活支援に関すること
- (4) 留学生等と地域との連携・交流促進に関すること
- (5) 情報発信に関すること
- (6) その他、上記目的達成のために、五者が必要と認める事項

連動

糸島市九州大学国際村構想

【課題解決のための施策】

- (1) 留学生等の住居及び滞在施設の整備促進
- (2) 留学生等が快適に暮らせる生活利便施設の整備促進
- (3) 留学生等の子どもが通うことのできる保育施設・学校等の充実
- (4) 留学生等と地元住民、企業等との交流機会の創出や交流施設の整備検討
- (5) 公共交通の機能強化などキャンパスまでのアクセスの向上

○五者による協定 ○糸島市全域を対象

2017年5月30日協定締結式
左から、九州大学久保総長、
糸島市月形市長、セトルー尾
社長、西日本シティ銀行谷川
頭取



○糸島市独自の構想 ○キャンパス隣接地区 を対象

系島市九州大学国際村構想実現へ向けて

●2017年5月
系島市九州大学国際村構想策定、地域の国際化に関する協定

●2019年5月
国際寮及び国際ホテル 建設開始

●2020年2月
国際寮及び国際ホテル コンセプト決定による記者発表

●2020年8月
国際寮「セトルインターナショナル」運営開始

●2021年3月
太陽の皿、グローバルホテル1階オープン

●2021年8月
セトルグローバルホテル系島 グランドオープン

●2022年
国際村交流事業を開始

●2024年
D&Iのまちづくりを研究

国際村構想実現
更なる
地域の国際化へ



セトルインターナショナル(留学生寮)
・240室・食堂あり・礼拝室等も設置



グローバルホテル系島
85室 200㎡のコンベンションルーム
宿泊者はフィットネス、温浴等利用可能

国際村の様子

◎九州大学キャンパス南側に隣接する泊カツラギ地区を「**九州大学国際村**」と位置付け



泊カツラギ地区
地区計画区域

九州大学南門
(2016年10月オープン)



(上) 食事付き学生寮
(下) コンビニエンスストア



グローバルホテル

国際寮

信号機の銘板には
「九大国際村」

(右) 国際寮 2020年8月オープン
(左) 国際ホテル 2021年8月オープン

市内中学生と九大留学生との課題解決型ワークショップ



【ワークショップのテーマ】
◎2022年度：環境問題
◎2023年度：エネルギー問題
◎2024年度：AI／生成AI
※各全4回のイベント開催。
うち、1回は、交流会

国際村構想に関して

直近の取組

地元の自治会（子ども会）主催
ハロウィンパーティー

10月26日



国際村の達成度に関して

九州大学国際村構想 2017年策定

九州大学を中心とした地域の国際化に対するため、キャンパス隣接地域に受け皿なる「国際村」を創設する。

【国際村構想に基づく主な施策】

- 留学生等の住居及び滞在施設の整備促進
セトルグローバルホテル(滞在施設) 85室
セトルインターナショナル(住居) 240室
- 留学生等が快適に暮らせる生活利便施設の整備促進
泊土地区画整理事業等による商業施設の誘致
- 留学生等と地元住民、企業等との交流機会の創出
中学生と九大留学生とのワークショップ事業開催
- 公共交通の機能強化などキャンパスまでのアクセス向上
新バス停「国際村前」の設置
- 留学生等の子どもが通うことのできる保育・教育施設の充実
とまりの森保育園開園
- その他
メインの交差点に「九大国際村」の銘板設置
ポケットパーク及び飲酒運転撲滅モニュメント設置

最上位計画

第2次長期総合計画 2021年～
「男女共同参画・人権・多文化共生の推進」

連携

多文化共生推進計画 2020年

長期総合計画の施策に掲げる目標の実現、糸島市九州大学国際村構想の実現のための取組方針を体系的に示す

九州大学国際村における外国人居住数・率の推移（各年度末）

